

登録コード:MH186300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	成人看護方法論【22M以降】 Adult Health Nursing Methodology		
担当教員	新井 清美 岡島 志野・北條 由美乃・近藤 協子・笠原 邑斗		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/3年 前期 月曜・3時限 月曜・4時限		
単位数、講義室	2単位	保健学科3 1 1 講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH22カリ・保健		
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。	⇔	既修の知識を応用し、健康障害を有する人への看護に必要な技術を身につける。
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	⇔	健康障害を有する人と家族の状況を分析し、必要な看護援助を判断できる能力を修得する。
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	⇔	対象に応じた看護を展開する。
	MH25カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・看護		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。 ≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識を修得し、健康障害を有する人と家族の状況に応じた看護を展開できる。 健康障害を有する人と家族の健康課題に対して、科学的・倫理的・道徳的・創造的に対応していく基礎的能力を修得する。
授業で学べる「テーマ」	環境共生、多文化協働、健康長寿、防災減災		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	本授業では、様々な健康レベルにある対象とその家族への支援を実践するために必要な知識の応用・技術・態度を修得することを目的とします。 本授業は、2年次に学んだ「成人看護学概論」、「成人看護健康論Ⅰ」、「成人看護健康論Ⅱ」の知識を前提とし、「成人臨床看護論」の内容と相補的に学んでいきます。本授業は、成人看護学実習Ⅰを履修するための前提となり、その後の臨地実習における重要な基盤となるものです。 本授業は、成人期にある対象の理解において、男女共同参画に関する内容を含んでいます。 本授業は、担当教員の医療機関における看護師としての実務経験を活かして講義を行います。		
授業計画	第1回 (4月13日3限) オリエンテーション、運動器系に障害のある患者の看護① (新井) 第2回 (4月13日4限) 運動器系に障害のある患者の看護② (新井) 第3回 (4月20日3限) グループワーク①：術前～術後3日目までのアセスメント (笠原・准教授・岡島・北條・今井・新井) 第4回 (4月20日4限) グループワーク②：術前～術後3日目までのアセスメント・関連図① (笠原・准教授・岡島・北條・今井・新井) 第5回 (4月27日3限) グループワーク③：術前～術後3日目までのアセスメント・関連図② (笠原・准教授・岡島・北條・今井・新井) 第6回 (4月27日4限) グループワーク④：術前～術後3日目までの看護計画① (笠原・准教授・岡島・北條・今井・新井) 第7回 (5月1日[金]3限) グループワーク⑤：術前～術後3日目までの看護計画② (発表) (笠原・准教授・岡島・北條・今井・新井) 第8回 (5月11日3限) 脳神経系に障害のある患者の看護① (ゲスト講師予定) 第9回 (5月11日4限) 脳神経系に障害のある患者の看護②リハビリテーション (ゲスト講師予定) 第10回 (5月18日3限) 演習①：術前オリエンテーション、術前訓練、術前処置など (岡島・准教授・北條・笠原・今井・新井) 第11回 (5月18日4限) 演習②：術後の観察など (岡島・北條・准教授・笠原・今井・新井) 第12回 (5月25日3限) 演習③：早期離床など (岡島・北條・准教授・笠原・今井・新井) 第13回 (5月25日4限) 演習④：セルフケア支援 (血糖測定など) (今井・笠原・准教授・岡島・北條・新井) 第14回 (6月1日3限) 緩和ケア・エンドオブライフケア① (ゲスト講師予定) 第15回 (6月1日4限) 緩和ケア・エンドオブライフケア② (ゲスト講師予定) ※授業アンケートの実施 第16回 (6月8日3限) 期末試験 (筆記) (6月8日4限) 実習オリエンテーション ※講義日程や内容、順番を変更する場合があります。		
授業の進め方	本授業は、指定テキストと配布資料、視聴覚教材等と、既修の知識を応用して対象に応		

授業の進め方	じた看護実践につなげるために、グループワークと演習を取り入れながら展開していきます。グループワークでは、事前の自己学習を基にディスカッションを行い資料をまとめ、プレゼンテーションにより理解を深めていきます。また、演習においても自己学習を基に実践していきます。意欲的に能動学習に取り組んでください。取り組んだ課題は提出していただきます。 配布資料は原則としてeALPSにアップロードします。各自でダウンロード・印刷し持参してください。 各回のリアクションフォームは、出席者が授業での学び等をeALPS上の所定のフォームに入力します。
テキスト、教材、参考書	<テキスト> 1) Nice成人看護学 成人看護技術 改訂第3版 南江堂 ＊成人看護学概論、成人臨床看護論で用いた以下のテキストを使用します ・ナース・グラフィカ 成人看護学② 健康危機状況／セルフケアの再獲得 第2版 メディカ出版 ＊成人看護健康論Ⅰ（内科学）、Ⅱ（外科学）、看護方法論Ⅲで使用した以下のテキストを引き続き使用します ・なるほどなっとく！内科学 改訂3版 南山堂 ・臨床外科看護総論 第12版 医学書院 ・臨床外科看護各論 第10版 医学書院 ・ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第6版 ノーヴェルヒロカワ その他、参考書や視聴覚教材は必要時紹介します。
成績評価の方法	期末試験（筆記）、グループワークおよび演習における個人課題・グループ課題に基づき成績を評価します。 総合的評価の配分は筆記試験60%、各回のリアクションフォームへの入力10%・グループワークおよび演習における課題提出物30%（個人課題20%・グループ課題10%）とし、総合点を100点とした場合の60%以上を合格とします。 期末試験（筆記）では、健康障害により治療を受ける対象への看護支援についての理解度を確認します。また、グループワークおよび演習の課題提出物では、提出期限の遵守、課題の達成度、参加度と参加態度によって評価します。 リアクションフォームへの入力がない場合は、その回の配点を0点とします。
成績評価の基準	期末試験（筆記）では、授業で示した内容と同じ水準の問題が解ければ「水準にある（可）」、応用問題が解ければ「やや上にある（良）」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある（優）」、授業内容よりもかなり難しい応用問題が解ければ「卓越している（秀）」と判定します。 グループワークおよび演習における個人課題・グループ課題では、求められた課題で到達してほしい水準に「不足（可）」、「やや不足（良）」「求められた水準（優）」、「優れている（秀）」として評価します。 総合的評価の判定基準は、下記の通りとします。 90-100点（%）：秀 80-89点（%）：優 70-79点（%）：良 60-69点（%）：可
事前事後学習の内容	【事前学習について】 毎回の授業の終わりに、次回までに学習すべき内容を説明します。グループワークでは、各自、指定された内容について既習の知識を基に発展的に調べて授業に臨んでください。個人での学習内容を基にディスカッションしていきます。演習についても、個人での学習とグループでの検討を要します。また、既修の知識と技術を発展させた内容となります。演習を効果的に行えるよう、個人での学習・技術練習を充実させて授業に臨んでください。実習室の開放時間は、別途お伝えします。 【事後学習について】 授業で提示された課題に取り組み、次回の授業に臨んでください。 グループワークおよび演習では、授業時間にもらったコメントを基に振り返りを行い、内容を深めて下さい。特に演習では、演習後にシミュレーター等を活用して技術練習を繰り返し行い、技術を定着させてください。追加の課題を提示することがあります。 本授業の単位修得には90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間(2時間×15回)+自己学習時間60時間(4時間×15回)=90時間
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	成人看護学実習Ⅰ（看護の実践と応用）を履修するにあたっては、本科目の単位取得が条件となります。 看護実践に直接つながる重要な授業になりますので、主体的な取り組みを期待しています。 質問への対応：新井清美 k_arai@shinshu-u.ac.jp または各回の担当教員 オフィスアワー：随時（要事前連絡）